

2次元 normal singularity について
都立大・理 渡辺敬一

我々の考える対象は 2次元 analytic set $V \subset \mathbb{C}^N$ の normal な singularity である。
closed open

(注) 2次元の場合 normal \Rightarrow (高次元) 孤立特異点だが
逆は成立しない。

例 1. $\{xw - yz = y^3 - x^2z = y^2w - xz^2 = yw^2 - z^3 = 0\}$

$\subset \mathbb{C}^4(x, y, z, w)$ は $(0, 0, 0, 0)$ に於て孤立特異点だが、これは正規 (= normal) でない。この特異点の

正規化は $(0, 0, 0, 0)$ に於て、 \mathbb{C}^5 の中でなければ埋め込めない。

しかし、 $V = \{f=0\} \subset \mathbb{C}^3$ のとき、又は V が局所的に完全交叉 (complete intersection) であるとき、正規 \Leftrightarrow 孤立特異点である。

2次元 normal singularity の次のような topics について述べようと思う。

1. Resolution of the Singularity とその方法。
2. 遂に regular surface の exceptional set を "ついで" できる特異点について。
3. 特異点の不変量及びそれが小さいときの "分類" ("genus", "rational singularity", "elliptic singularity", Gorenstein singularity)
4. \mathbb{C}^* -action をもつ特異点 (= weighted homogeneous singularity) に関する精密な結果。
5. いろいろな性質をもつ特異点について (tangent singularity, solvable fundamental group をもつ singularity など)

1. Resolution について.

V を 2次元 analytic space, $P \in V$ の normal sing. とする.

(以後, 簡単のため, 常に P は V の 唯一 の特異点と仮定する)

$\pi: \tilde{V} \rightarrow V$ が P の resolution とは, π は proper holomorphic map で, $\pi|_{\tilde{V}-\pi^{-1}(P)}: \tilde{V}-\pi^{-1}(P) \rightarrow V-\{P\}$ は bi-holomorphic. resolution は常に存在する (広中, Zariski). このとき $\pi^{-1}(P) = \bigcup_{i=1}^n E_i$; (E_i は irreducible projective curve) と書ける. $\bigcup_{i=1}^n E_i$ がどのような曲線群で, $\bigcup_{i=1}^n E_i$ の \tilde{V} への埋め込みの様子がどうなっているかによって, 特異点 P の状態が決まる. 与えられた P に対して \tilde{V} を求める方法を考へた.

ここでは Laufer の本にある Jung(?) の方法を書いて見る.

Step 1. Cyclic Quotient Singularity の resolution.

$$C_{n,q} \text{ は } \begin{bmatrix} e_n & 0 \\ 0 & e_n^q \end{bmatrix} \quad (e_n = \exp(\frac{2\pi i}{n}), n \text{ と } q \text{ は互いに素})$$

で生成された, $GL(2, \mathbb{C})$ の subgroup とする. $C_{n,q}$ は自然に \mathbb{C}^2 に作用し, $\mathbb{C}^2/C_{n,q}$ は $(0,0)$ に normal singularity をもつ 2次元 analytic space とする. $X_{n,q}$ と書く. 一般に, $X_{n,q}$ は \mathbb{C}^N の領域に埋め込んだり, その方程式を書き (のほごの面倒だが), (Riemann-schneider, [3] 参照) $X_{n,q}$ は

$$\{z^n = x^{nq} y\} \subset \mathbb{C}^3 \text{ の正規化になっている.}$$

$X_{n,q}$ の resolution を構成しよう.

$$\frac{n}{q} = k_1 - \frac{1}{k_2 - \frac{1}{k_3 - \dots - \frac{1}{k_s}}} \quad \text{と連分数展開する.}$$

$$\left[\frac{5}{2} = 3 - \frac{1}{2}, \quad \frac{5}{4} = 2 - \frac{1}{2 - \frac{1}{2 - \frac{1}{2}}} \right]$$

smooth surface $M = M(k_1, \dots, k_s)$ を次のように構成する.

$$M = \bigcup_{i=0}^s U_i, \quad U_i = \mathbb{C}(u^{(i)}, v^{(i)}) \quad (u = u^{(0)}, v = v^{(0)} \neq 0), \text{ 但し,}$$

$$U_0 \cap U_1 = \{u \neq 0\}, \quad u' = u^{-1}, \quad v' = u^{k_1} v$$

$$U_1 \cap U_2 = \{v \neq 0\}, \quad v'' = v^{-1}, \quad u'' = v^{k_2} u'$$

$$U_2 \cap U_3 = \{u'' \neq 0\}, \quad u''' = u''^{-1}, \quad v''' = (u'')^{k_3} v''$$

$$A_1 = \{v = v' = 0\}, \quad A_2 = \{u' = u'' = 0\}, \quad \dots, \quad A = \bigcup_{i=1}^s A_i$$

とあると, $M = \{uv \neq 0\} \cup A \cup \{u = 0\} \cup \{u^{(s)} = 0\}$ (s : odd のとき)
 (s : even のとき, $v^{(s)}$ に代り, v 同様)

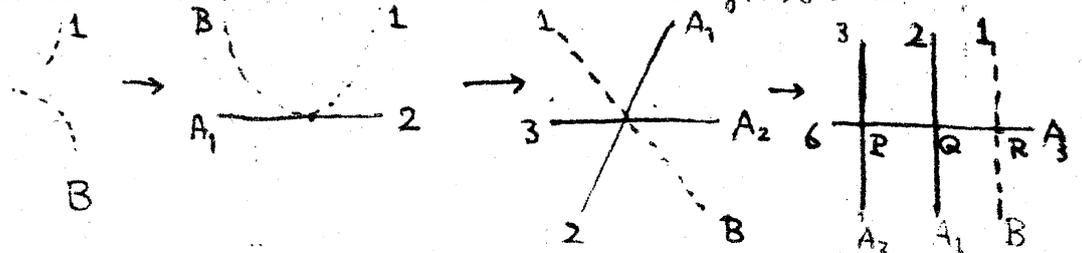
各 $A_i \cong \mathbb{P}_\mathbb{C}^1$ で, $A_i \cdot A_i = -R_i$ であり, また, (s : odd のとき)
 $v^{(s)} = u^{k_1} v^k$, また, $v^{(s)}, v$ は M 全体で holomorphic
 な函数である.

Step 2 一般の場合, V は \mathbb{C}^2 の covering space と思える.

このとき $\pi: V \rightarrow \mathbb{C}^2$ の branch locus を考える. branch locus が $x^a y^b = 0$ の形になったときは, V は $z^c = x^a y^b$ の形になっているわけだから, この場合は Step 1 に帰着できる. 従って branch locus を normal crossing になった形にする設だが, これは, (branch locus は平面曲線だから),

\mathbb{C}^2 で一点に対する blow-up を繰り返して得られる.

例として, $z^5 = x^2 + y^3$, $z^6 = x^2 + y^3$, $z^7 = x^2 + y^3$ を考えて見よう. このとき branch locus はいずれも $x^2 + y^3 = 0$ だから, この curve は特異点を持つ. これを normal crossing にするために



$$Z^5 = x^2 + y^3$$

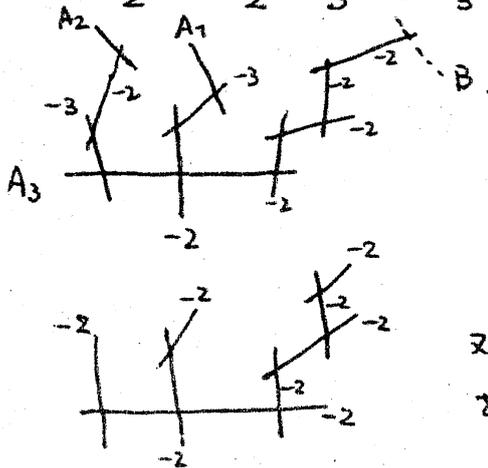
このとき、真 P, Q, R の上での resolution はそれぞれ、

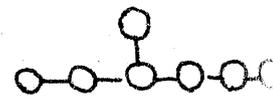
$X_{5,2}, X_{5,3}, X_{5,4}$ の resolution と同じになる。

$$\frac{5}{2} = 3 - \frac{1}{2}, \frac{5}{3} = 2 - \frac{1}{3}, \frac{5}{4} = 2 - \frac{1}{2} - \frac{1}{2} - \frac{1}{2}$$

よって、resolution は
となる。更に、 $A_1 \cdot A_1 = -1 = A_2 \cdot A_2$,

$A_3 \cdot A_3 = -2$ となるので、 ± 1 種別外
曲線を contract すると、

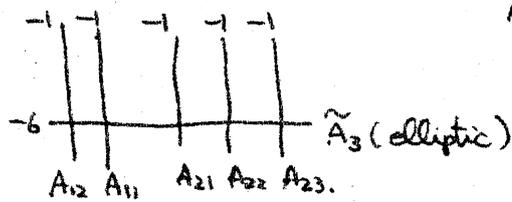


又は dual graph で、 を得る。

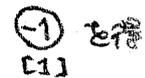
$$Z^6 = x^2 + y^3$$

このとき A_1, A_2 の逆像は可約で、それぞれ 2, 3 つの成分を成す。

また、 A_3 の逆像は elliptic curve である事がわかる。



$A_{11}, A_{12}, A_{21}, A_{22}, A_{23}$ は contract
できず、

又は  を得る。

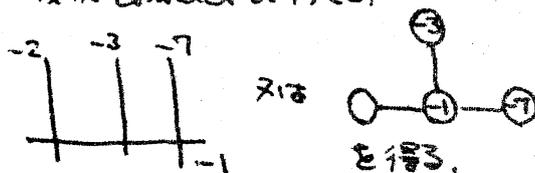
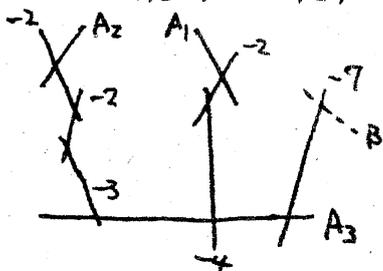
$$Z^7 = x^2 + y^3$$

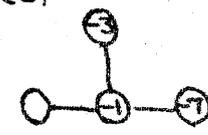
このとき、真 P, Q, R の上での resolution はそれぞれ、

$X_{7,3}, X_{7,2}, X_{7,1}$ の resolution と同じである。従って

$$A_1^2 = A_2^2 = A_3^2 = -1$$

となるので、 ± 1 種別外、
順次 contract して行くと、



又は  を得る。

今度は smooth な surface X の中 \mathbb{P}^2 complete curve $E = \bigcup_{i=1}^n E_i$ がうめこまれている状態を考へよ。このとき, (E は連結とする)。

定理 (Brieskorn) $\exists \pi: X \rightarrow V, \pi(E) = \{P\}$,

$\pi|_{X-E}: X-E \rightarrow V-\{P\}$ は biholomorphic

\Leftrightarrow intersection matrix $(E_i \cdot E_j)_{i,j}$ が負定値。

例 C を complete smooth curve, L を C 上の line bundle, $\deg L < \infty$ とする。このとき L の 0-section を E とすると,

$E^2 = \deg L < 0$ より E は -1 に contract できる。このとき

$\pi(E) = P$ の局所環は

$R = \bigoplus_{n \geq 0} \Gamma(C, \mathcal{O}(L^{\otimes n}))$ (を analytic にしたものを) で得られる。

更に, C が elliptic curve, $\mathcal{O}(L) = \mathcal{O}(-x)$ (C の異 x を定義する ident))

のとき, R は $1 \in R_1, \wp$ (\wp -函数) $\in R_2, \wp' \in R_3$ で生成され,

$$\mathcal{O}_{V,P} \cong \mathbb{C}\langle X, Y, Z \rangle / (Z^2 - 4Y^3 + g_2 Y Z^2 + g_3 Z^3)$$

C の genus が 2 以上, $\mathcal{O}(L) = \mathcal{O}(-x)$ ($x \in C$) のとき, R (又は

$\mathcal{O}_{V,P}$) の構造は α に於ける "Weierstrass gap sequence"

と密接な関係をもつ。

2. \mathbb{P}^2 の不変量について。

$\mathbb{P}^2 \supset C$ が degree d の既約曲線るとき, C の種数は

$$g = \frac{(d-1)(d-2)}{2} - \sum_{x \in C} \mu_x$$

ここで μ_x は $x \in C$ の特異点に対応する不変量。

二次元 normal singularity のとき, これに対応するのは,

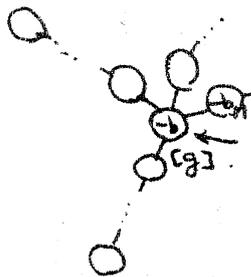
$$p_g(\mathcal{O}_x) \stackrel{\text{def}}{=} \dim_{\mathbb{C}} R^1 \pi_* (\mathcal{O}_{\tilde{V}}) \quad (\text{但し, } \tilde{V} \xrightarrow{\pi} V \text{ は特異点の}$$

resolution. (V が Stein のとき, $p_g(\mathcal{O}_x) = \dim H^1(\tilde{V}, \mathcal{O}_{\tilde{V}})$).

このとき $\pi: \tilde{X} \rightarrow X$, \tilde{X} が smooth のとき,

3. \mathbb{C}^* -action をもつ特異点について (Pinkham による).

Oelik-Wagreich [4] において \mathbb{C}^* -action をもつ特異点は
調べる. resolution のグラフは (\mathbb{C}^* -action をもつ =
weighted homogeneous form) weight だけで決まる事
がわかっている. また, グラフは "star" である事もわかっている.



\mathbb{C}^* -action をもつとき, 特異点は
次のものによって決まる.

central curve C 及び,

その conormal bundle $\mathcal{L} \stackrel{\text{put}}{=} \mathcal{O}(D)$.

"枝" と C の交点 $\{P_i\}_{i=1}^n$.

$$\frac{d_i}{e_i} = b_{i1} - \frac{1}{b_{i2} - \dots - \frac{1}{b_{in}}}$$

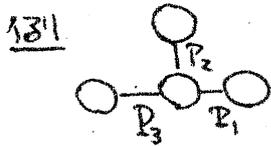
このときある curve C' , 有群 $G \subset \text{Aut}(C')$, G -invariant
な line bundle \mathcal{L}' on C' , があつて,

$$\mathcal{O}_P \cong \left(\bigoplus_{n \geq 0} H^0(C', \mathcal{L}'^{\otimes n}) \right)^G \text{ (の analytic algebra)}$$

がわかっているが, 更に, \mathcal{O}_P は

$$\mathcal{O}_P \cong \bigoplus_{n \geq 0} H^0(C, \mathcal{O}(D^{(n)})), \text{ 但し, } D^{(n)} = nD - \sum_{i=1}^n \left\{ m \frac{e_i}{d_i} \right\} P_i$$

と書ける. 但し, $\{x\}$ ($x \in \mathbb{R}$) は x 以上の最小の整数.



$P_1 = 0, P_2 = 1, P_3 = \infty, D = P_2 + P_3$ とおくと,

$$D^{(1)} = -P_1, H^0(\mathcal{O}(D^{(1)})) = 0.$$

$$D^{(2)} = P_2 + P_3 - P_1, H^0(\mathcal{O}(D^{(2)})) \ni x=t, y = \frac{t}{t-1}$$

$$D^{(3)} = -2P_1 + P_2 + P_3, H^0(\mathcal{O}(D^{(3)})) \ni z = \frac{t^2}{t-1}$$

$\bigoplus_{n \geq 0} H^0(C, \mathcal{O}(D^{(n)}))$ は x, y, z で生成され, relation は,

$$z^2 = x^2(x+y).$$

References.

- [1] Laufer: Normal Two-dimensional Singularities,
Annals of Math. Studies, Princeton Univ. Press
- [2] M. Reid: Elliptic Gorenstein Singularities of Surfaces,
(Preprint).
- [3] O. Riemenschneider: Deformationen von Quotient
-singularitäten (nach zyklischen gruppen), Math. Ann.
209 (1974), 211~248.
- [4] G. Brieskorn: Singularities of algebraic surfaces
with \mathbb{C}^* -action, Ann. of Math. 93 (1971),
205~228.
- [5] H. Pinkham: Normal Surface Singularities with
 \mathbb{C}^* -action, Math. Ann. 227 (1977), 183~193.